

## 令和8年度九州女子大学大学院三つのポリシー（DP・CP・AP）一覧表

学則第2条（学是）	大学院は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。
-----------	---

人材養成及び教育研究上の目的	<p>（研究科の人材養成及び教育研究上の目的等）</p> <p>第6条 人間科学研究科は、人間の心理と文化に関する研究を通して、高度な専門性と実践力を有し、社会の発展に貢献できる人材を育成することを目的とする。</p> <p>（専攻の人材養成及び教育研究上の目的等）</p> <p>第7条 人間科学専攻は、人間の心理と日本語・日本文化について理解を深め、現代社会において多岐にわたる課題を解決することのできる、高度な専門性と高いコミュニケーション力を有する職業人を養成することを目的とする。</p>
----------------	---

	人間科学研究科人間科学専攻
【D】 修了認定・学位授与の方針 （DP）	<p>本研究科では、人間の心理と日本語・日本文化における幅広い知識を身に付け、自身の専門分野を基軸に、修士（文学）に相応しい優れた研究能力と高度な専門的知識を素養として、社会の発展に貢献できる人材を育成することを目指す。この基本理念を基に、以下を満たした学生に修了を認定し、学位を授与する。</p> <p><b>知識・技能</b></p> <p>日本文化、日本語・日本文学、心理学に関する幅広い知識を基盤に、高度かつ専門的な知識と技能を身に付けている。</p> <p>専門分野に関する諸問題を最新の学問的成果を踏まえて理解し、研究を遂行できる能力を身に付けている。</p> <p><b>思考力・判断力・表現力</b></p> <p>専門分野の諸問題に対して、各研究分野で培った高度なコミュニケーション力、論理的思考力を用いて、合理的、効果的に課題解決ができる能力を身に付けている。</p> <p>主体性・協働性・倫理性</p> <p>自身の専門分野を研究する者として相応しい素養や倫理観、責任感を持ち、地域や社会の動向を踏まえて現場で必要とされる実践力を身に付け、他者と協働し社会の一員として適切な行動ができる。</p>
【CP】 教育課程編成・実施の方針 （CP）	<p>本研究科は、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める人材を育成するために、共通科目、専門教育科目、修了研究科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。</p> <p><b>教育内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>共通科目は、日本文化、日本語・日本文学、心理学を基盤とした高度な研究能力とコミュニケーション力を身に付けるとともに、研究倫理についても理解を深めるため、必修の導入科目として「人間科学基礎特論」を配置する。</li> <li>専門教育科目は、「日本語・日本文学研究分野」と「臨床心理研究分野」に区分し、研究者として課題を解決する技能を身に付けるための科目を配置する。1年次では両分野を横断的に幅広く学びながら各分野に関する専門知識を深め、2年次では自身の専門分野の選択科目を通して高度な専門性を身に付ける。</li> <li>修了研究科目は、修士論文の作成を通して、研究倫理に基づき、課題に対する探求力や解決力および論理的思考力などの研究者として必要な能力を身に付けるため、必修科目として「修了研究Ⅰ」「修了研究Ⅱ」を配置する。</li> </ol> <p><b>教育方法</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>講義科目および演習科目では、幅広い知識を修得させることを目的として、アクティブ・ラーニングを取り入れた双方向による授業を実施し、協働性を身に付けるとともに、課題解決能力を育成する。</li> <li>実習科目では、実社会において修得した知識・技能を実践する力を身に付けることを目的として、調査・実践の計画の立案、事後の検証を行う。</li> <li>修了研究は、身に付けた知識・論理的思考力・分析力を活用し、自らの選んだ研究の成果が実を結ぶようきめ細やかな指導を実施する。</li> </ol> <p><b>教育評価</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>知識・技能の修得に関しては、講義科目および演習科目において、研究課題に対する調査や研究成果の報告を通して、総合的に評価する。</li> <li>思考力・判断力・表現力の修得に関しては、修士論文における研究成果に基づき、評価する。</li> <li>主体性・協働性・倫理性の修得に関しては、修士論文における研究成果に基づき、研究課題に対して主体的に解決しようとする姿勢と能力を評価する。</li> </ol>
【AP】 入学者受入れの方針 （AP）	<p>本研究科は、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、社会で活躍できる高度な専門知識などについて修得する。入学者には次のような学力を有した人材を求める</p> <p>日本文化、日本語・日本文学、心理学に関する幅広い分野において必要となる専門的知識・技能を身に付けようとする意欲を有する。（<b>知識・技能</b>）</p> <p>専門的知識を用いて、実社会の多様な課題に対して多面的・論理的に考え、その考えた内容をわかりやすく説明しようという意欲を有する。（<b>思考力・判断力・表現力</b>）</p> <p>自己の判断と責任をもって行動し、自ら進んで他者と協働して地域や社会の活性化に貢献する強い意欲がある。（<b>主体性・協働性・倫理性</b>）</p>

## 令和7年度九州女子大学大学院三つのポリシー（DP・CP・AP）一覧表

学則第2条（学是）	大学院は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。
-----------	---

人材養成及び教育研究上の目的	<p>（研究科の人材養成及び教育研究上の目的等）</p> <p>第6条 人間科学研究科は、人間の心理と文化に関する研究を通して、高度な専門性と実践力を有し、社会の発展に貢献できる人材を育成することを目的とする。</p> <p>（専攻の人材養成及び教育研究上の目的等）</p> <p>第7条 人間科学専攻は、人間の心理と日本語・日本文化について理解を深め、現代社会において多岐にわたる課題を解決することのできる、高度な専門性と高いコミュニケーション力を有する職業人を養成することを目的とする。</p>
----------------	---

	人間科学研究科人間科学専攻
【修了認定・学位授与の方針（DP）】	<p>本研究科では、人間の心理と日本語・日本文化における幅広い知識を身に付け、自身の専門分野を基軸に、修士（文学）に相応しい優れた研究能力と高度な専門的知識を素養として、社会の発展に貢献できる人材を育成することを目指す。この基本理念を基に、以下を満たした学生に修了を認定し、学位を授与する。</p> <p><b>知識・技能</b></p> <p>日本文化、日本語・日本文学、心理学に関する幅広い知識を基盤に、高度かつ専門的な知識と技能を身に付けている。</p> <p>専門分野に関する諸問題を最新の学問的成果を踏まえて理解し、研究を遂行できる能力を身に付けている。</p> <p><b>思考力・判断力・表現力</b></p> <p>専門分野の諸問題に対して、各研究分野で培った高度なコミュニケーション力、論理的思考力を用いて、合理的、効果的に課題解決ができる能力を身に付けている。</p> <p>主体性・協働性・倫理性</p> <p>自身の専門分野を研究する者として相応しい素養や倫理観、責任感を持ち、地域や社会の動向を踏まえて現場で必要とされる実践力を身に付け、他者と協働し社会の一員として適切な行動ができる。</p>
【教育課程編成・実施の方針（CP）】	<p>本研究科は、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める人材を育成するために、共通科目、専門教育科目、修了研究科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。</p> <p><b>教育内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>共通科目は、日本文化、日本語・日本文学、心理学を基盤とした高度な研究能力とコミュニケーション力を身に付けるとともに、研究倫理についても理解を深めるため、必修の導入科目として「人間科学基礎特論」を配置する。</li> <li>専門教育科目は、「日本語・日本文学研究分野」と「臨床心理研究分野」に区分し、研究者として課題を解決する技能を身に付けるための科目を配置する。1年次では両分野を横断的に幅広く学びながら各分野に関する専門知識を深め、2年次では自身の専門分野の選択科目を通して高度な専門性を身に付ける。</li> <li>修了研究科目は、修士論文の作成を通して、研究倫理に基づき、課題に対する探求力や解決力および論理的思考力などの研究者として必要な能力を身に付けるため、必修科目として「修了研究Ⅰ」「修了研究Ⅱ」を配置する。</li> </ol> <p><b>教育方法</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>講義科目および演習科目では、幅広い知識を修得させることを目的として、アクティブ・ラーニングを取り入れた双方向による授業を実施し、協働性を身に付けるとともに、課題解決能力を育成する。</li> <li>実習科目では、実社会において修得した知識・技能を実践する力を身に付けることを目的として、調査・実践の計画の立案、事後の検証を行う。</li> <li>修了研究は、身に付けた知識・論理的思考力・分析力を活用し、自らの選んだ研究の成果が実を結ぶようきめ細やかな指導を実施する。</li> </ol> <p><b>教育評価</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>知識・技能の修得に関しては、講義科目および演習科目において、研究課題に対する調査や研究成果の報告を通して、総合的に評価する。</li> <li>思考力・判断力・表現力の修得に関しては、修士論文における研究成果に基づき、評価する。</li> <li>主体性・協働性・倫理性の修得に関しては、修士論文における研究成果に基づき、研究課題に対して主体的に解決しようとする姿勢と能力を評価する。</li> </ol>
【アドミッション・ポリシー（AP）】	<p>本研究科は、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、社会で活躍できる高度な専門知識などについて修得する。入学者には次のような学力を有した人材を求める</p> <p>日本文化、日本語・日本文学、心理学に関する幅広い分野において必要となる専門的知識・技能を身に付けようとする意欲を有する。（<b>知識・技能</b>）</p> <p>専門的知識を用いて、実社会の多様な課題に対して多面的・論理的に考え、その考えた内容をわかりやすく説明しようという意欲を有する。（<b>思考力・判断力・表現力</b>）</p> <p>自己の判断と責任をもって行動し、自ら進んで他者と協働して地域や社会の活性化に貢献する強い意欲がある。（<b>主体性・協働性・倫理性</b>）</p>

## 令和6年度九州女子大学大学院三つのポリシー（DP・CP・AP）一覧表

学則第2条（学是）	大学院は、 <b>建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。</b>
-----------	---

人材養成及び教育研究上の目的	<p>（研究科の人材養成及び教育研究上の目的等）</p> <p>第6条 人間科学研究科は、人間の心理と文化に関する研究を通して、高度な専門性と実践力を有し、社会の発展に貢献できる人材を育成することを目的とする。</p> <p>（専攻の人材養成及び教育研究上の目的等）</p> <p>第7条 人間科学専攻は、人間の心理と日本語・日本文化について理解を深め、現代社会において多岐にわたる課題を解決することのできる、高度な専門性と高いコミュニケーション力を有する職業人を養成することを目的とする。</p>
----------------	---

	人間科学研究科 人間科学専攻
--	----------------

<b>【</b> 修了認定・学位授与の方針 <b>【</b> ディプロマ・ポリシー <b>】</b> (DP)	<p>本研究科では、人間の心理と日本語・日本文化における幅広い知識を身に付け、自身の専門分野を基軸に、修士（文学）に相応しい優れた研究能力と高度な専門的知識を素養として、社会の発展に貢献できる人材を育成することを目指す。この基本理念を基に、以下を満たした学生に修了を認定し、学位を授与する。</p> <p>知識・技能</p> <p style="padding-left: 20px;">日本文化、日本語・日本文学、心理学に関する幅広い知識を基盤に、高度かつ専門的な知識と技能を身に付けている。</p> <p style="padding-left: 20px;">専門分野に関する諸問題を最新の学問的成果を踏まえて理解し、研究を遂行できる能力を身に付けている。</p> <p>思考力・判断力・表現力</p> <p style="padding-left: 20px;">専門分野の諸問題に対して、各研究分野で培った高度なコミュニケーション力、論理的思考力を用いて、合理的、効果的に課題解決ができる能力を身に付けている。</p> <p>主体性・協働性・倫理性</p> <p style="padding-left: 20px;">自身の専門分野を研究する者として相応しい素養や倫理観、責任感を持ち、地域や社会の動向を踏まえて現場で必要とされる実践力を身に付け、他者と協働し社会の一員として適切な行動ができる。</p>
--	--

<b>【</b> 教育課程編成・実施の方針 <b>【</b> カリキュラム・ポリシー <b>】</b> (CP)	<p>本研究科は、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める人材を育成するために、共通科目、専門教育科目、修了研究科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。</p> <p>教育内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>共通科目は、日本文化、日本語・日本文学、心理学を基盤とした高度な研究能力とコミュニケーション力を身に付けるとともに、研究倫理についても理解を深めるため、必修の導入科目として「人間科学基礎特論」を配置する。</li> <li>専門教育科目は、「日本語・日本文学研究分野」と「臨床心理研究分野」に区分し、研究者として課題を解決する技能を身に付けるための科目を配置する。1年次では両分野を横断的に幅広く学びながら各分野に関する専門知識を深め、2年次では自身の専門分野の選択科目を通して高度な専門性を身に付ける。</li> <li>修了研究科目は、修士論文の作成を通して、研究倫理に基づき、課題に対する探求力や解決力および論理的思考力などの研究者として必要な能力を身に付けるため、必修科目として「修了研究Ⅰ」「修了研究Ⅱ」を配置する。</li> </ol> <p>教育方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>講義科目および演習科目では、幅広い知識を修得させることを目的として、アクティブ・ラーニングを取り入れた双方向による授業を実施し、協働性を身に付けるとともに、課題解決能力を育成する。</li> <li>実習科目では、実社会において修得した知識・技能を実践する力を身に付けることを目的として、調査・実践の計画の立案、事後の検証を行う。</li> <li>修了研究は、身に付けた知識・論理的思考力・分析力を活用し、自らの選んだ研究の成果が実を結ぶようにきめ細やかな指導を実施する。</li> </ol> <p>教育評価</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>知識・技能の修得に関しては、講義科目および演習科目において、研究課題に対する調査や研究成果の報告を通して、総合的に評価する。</li> <li>思考力・判断力・表現力の修得に関しては、修士論文における研究成果に基づき、評価する。</li> <li>主体性・協働性・倫理性の修得に関しては、修士論文における研究成果に基づき、研究課題に対して主体的に解決しようとする姿勢と能力を評価する。</li> </ol>
---	---

<b>【</b> 入学者受入れの方針 <b>【</b> アドミッション・ポリシー <b>】</b> (AP)	<p>本研究科は、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、社会で活躍できる高度な専門知識などについて修得する。入学者には次のような学力を有した人材を求める</p> <p>日本文化、日本語・日本文学、心理学に関する幅広い分野において必要となる専門的知識・技能を身に付けようとする意欲を有する。（知識・技能）</p> <p>専門的知識を用いて、実社会の多様な課題に対して多面的・論理的に考え、その考えた内容をわかりやすく説明しようという意欲を有する。（思考力・判断力・表現力）</p> <p>自己の判断と責任をもって行動し、自ら進んで他者と協働して地域や社会の活性化に貢献する強い意欲がある。（主体性・協働性・倫理性）</p>
---	--